BUDŌ NEWS

今月のニュース

男子団体優勝・修徳（東京）に内閣総理大臣杯が手渡される

第 36 回全国高等学校柔道選手権大会

修徳が悲願の初優勝

修徳・小川雄勢は男子個人無差別も制して団体・個人の二冠

男子団体決勝＝修徳・佐藤が有効を奪う

男子団体決勝＝修徳・原澤が内股で有効

第36回全国高等学校柔道選手権大会は3月20日、21日に日本武道館で開催され、団体戦と個人戦で高校柔道日本一を争って白熱した試合が展開された。

男子団体戦では、修徳（東京）が白鷗大足利（栃木）に勝って悲願の初優勝を手にした。女子団体戦は埼玉栄（埼玉）が桐蔭学園（神奈川）を降して2年ぶり4回目の優勝を遂げた。また、男子個人戦無差別は修徳の小川雄勢が優勝し、小川は団体・個人の二冠に輝いた。

団体戦（21日）

■男子

52チームによるトーナメント方式、1チーム5名の勝ち抜き試合で行われた。試合時間は3分（決勝4分）。

準決勝には、国士舘（東京）、白鷗大足利（栃木）、崇徳（広島）、修徳（東京）が勝ち進んだ。前回優勝の東海大浦安（千葉）は2回戦で敗退した。白鷗大足利と国士舘の対戦は全員が引き分け、代表戦で白鷗大足利・太田彪雅が国士舘・吉良儀城

第36回全国高等学校柔道選手権大会

男子団体決勝＝攻める修徳・小川

男子団体優勝＝修徳（東京）

に払腰で一本勝して、白鷗大足利が決勝に駒を進めた。修徳対崇徳は、修徳・小川雄勢と崇徳・香川大吾の大将対決にもつれ込み、小川が小外掛で技有を奪って優勢勝。決勝進出を決めた。

決勝

修徳　一人残し　白鷗大足利

佐藤　竜㊀優勢勝　浅野大輔

佐藤　竜　引　分　柳原尚弥

坂口真人　払巻込○山中勇希

伊藤祐介　引　分　山中勇希

原澤脩司㊀優勢勝　太田竜聖

原澤脩司　内　股○太田彪雅

小川雄勢㊀優勢勝　太田彪雅

まずは修徳・佐藤が白鷗大足利・浅野から有効を奪って優勢勝して一人抜き。佐藤と白鷗大足利次鋒・柳原の対戦は、佐藤が有効を先取するも指導を重ねて柳原にポイントを与え、引き分ける。

白鷗大足利は中堅・山中が修徳次鋒・坂口に払巻込で一本勝して一人抜き。山中対修徳・伊藤の中堅対決はどちらもポイントを取れず引分ける。

続く試合は修徳の副将・原澤対白

男子団体決勝で修徳と接戦を繰り広げた白鷗大足利
（上）白鷗大足利・山中が払巻込で一本
（左）白鷗大足利・太田（彪）が内股で一本

鷗大足利の副将・太田（竜）。原澤が終盤に内股で有効を奪って、白鷗大足利の大将を引き出す。すると白鷗大足利大将・太田（彪）は開始20秒、原澤に内股を決めて一本勝。大将対決に持ち込んだ。

修徳の大将は小川。長身の小川に揺さぶられ、組もうとしない太田に指導が与えられる。その後も技の出ない太田に指導が重なる。小川は最後まで太田を攻め立てるも、決め手のないまま終了。指導2による優勢勝で小川が勝ち、一人残しで修徳が初優勝を勝ち取った。

◎優勝＝修徳・大森淳司監督

「常に強いチームではないのですが、選手も、選手ではない生徒も、本当に一所懸命やってくれました。去年との大きな違いは、心の成長だと思います。今日も、生徒たちが決勝前に使っていた場所を掃除したりきれいにする姿を見て、優勝できるかもと感じました。また、キャプテンの仲島拓志が、自分を捨ててチームのために徹してくれたことが大きな力となりました」

◎優勝＝修徳大将・小川雄勢選手

父は全日本柔道選手権大会7回優勝の小川直也氏。前日の個人戦無差別でも優勝し、団体・個人の二冠を果たした。

「今日の団体戦は個人戦とは全く別のものと思って臨みました。二冠ということも意識はしませんでした。団体戦は一つ一つの試合をしっかりという気持ちで戦ってきたので、気付いたら優勝していたという感じです。最優秀選手にも選ばれましたが、それもチームの他の4人とともに優勝できたからこその結果なので、みんなに感謝しています」

■女子

48チームによるトーナメント方式、1チーム3名の点取り試合で行われた。試合時間は3分(決勝4分)。

準決勝には、大成（愛知）、埼玉栄（埼玉）、桐蔭学園（神奈川）、紀央館（和歌山）が勝ち進んだ。大成対埼玉栄は先鋒から大将まで全試合

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

女子団体決勝大将戦＝埼玉栄・冨田が桐蔭学園・鈴木に後袈裟固

引分け、代表戦で埼玉栄が勝って決勝進出を決めた。桐蔭学園と紀央館の対戦は、桐蔭学園が先鋒戦、中堅戦を制して紀央館を降した。

決勝

埼玉栄　2―1　桐蔭学園

常見海琴㊀優勢勝　馬場彩子

柴田理帆　合　技○嶺井美穂

冨田若春○後袈裟固　鈴木双葉

先鋒戦、積極的に攻める埼玉栄・常見が、中盤、大外刈で有効を奪う。その後はポイントの動きのないまま終了し、常見が優勢勝。中堅戦では終盤、桐蔭学園・嶺井が遠間から飛び込むように掛けた大外刈で技有を奪うと、そのまま抑え込んで一本勝する。

大将戦、埼玉栄・冨田が中盤に払腰で有効を奪い、後袈裟固に持ち込んで一本勝。2―1で埼玉栄が2年ぶり4回目の優勝となった。

◎優勝＝埼玉栄・本松好正監督

「素晴らしい戦いぶりでした。上ばかりを見ていては転んでしまうから、一つ一つ、悔いのないような試合をするようにといつも言っていますが、今日はそれを実践できていました」

◎優勝＝埼玉栄大将・冨田若春選手

「一つ一つの試合で先鋒、中堅の選手が自分まで繋いでくれて、雰囲気も良かったので頑張れました」

女子団体優勝＝埼玉栄（埼玉）

個人戦（20日）

階級別のトーナメント方式、試合時間3分で行われた。

■男子

60kg級

決勝は永山竜樹（愛知・大成）と大島拓海（徳島・阿波）の対戦となった。両者得点なく、ゴールデンスコアにもつれ込むも勝敗は決まらず。判定の結果、2対1で永山が優

男子個人 81kg級決勝＝佐々木が飯島に上四方固

女子個人 70kg級決勝＝池が内股で有効を奪う

男子個人 73kg級決勝＝阿部が古賀に大外刈を掛ける

勢勝した。

73kg級

決勝は阿部一二三（兵庫・神港学園）と古賀颯人（愛知・大成）の対戦となった。阿部が古賀に小外掛で有効を先取されるも、その後、大外刈を決めて一本勝した。

81kg級

決勝は佐々木健志（島根・平田）と飯島俊佑（神奈川・東海大相模）の対戦となった。飯島が内股による有効で先制する。しかし佐々木が小内刈で技有を奪って逆転、そのまま上四方固で一本勝した。

90kg級

決勝は白川剛章（福井・福井工大福井）と安達健太（岡山・作陽）の対戦となった。試合時間残り5秒、白川の内股が有効となって勝利を収めた。

無差別

決勝は小川雄勢（東京・修徳）と古田伸悟（奈良・天理）の対戦となった。長身の小川に奥襟を取られた古田は技を出すことができず、指導が2回与えられる。最後まで両者決め手がないまま終了し、小川が指導2により優勢勝した。

■女子

52kg級

決勝は前田千島（鹿児島・市立国分中央）と黒木七都美（愛知・大成）の対戦となった。それぞれ指導2の同点で終了、ゴールデンスコアで黒木にさらに指導が与えられ、前田の優勢勝となった。

57kg級

決勝は西尾直子（東京・帝京）と柴田理帆（埼玉・埼玉栄）の対戦となった。決め手のないまま試合終了となり、西尾が指導2により優勢勝した。

63kg級

決勝は鍋倉那美（愛知・大成）と佐藤史織（愛媛・新田）の対戦となった。試合はゴールデンスコアまでもつれ込むもポイントのないまま試合は終了し、判定の結果、3―0で鍋倉の勝ちが決まった。

70kg級

決勝は池絵梨菜（大阪・東大阪大敬愛）と畠石香花（茨城・土浦日大）の対戦となった。技の出ない畠石に指導が2つ与えられ、池に有効のポイントが入る。池は小内刈で技有、

内股で有効を獲得。畠石は取り返すことができず、池が優勢勝した。

無差別

決勝は佐藤杏香（北海道・東海大第四）と冨田若春（埼玉・埼玉栄）の対戦となった。積極的に攻める佐藤に対し、冨田は技が出ず、指導が重なる。佐藤も仕掛けていくが決まらず、佐藤の指導2による優勢勝となった。

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

【大会結果】

■男子団体＝①修徳（東京）②白鷗大学足利（栃木）③崇徳（広島）、国士舘（東京）

■女子団体＝①埼玉栄（埼玉）②桐蔭学園（神奈川）③大成（愛知）、県立紀央館（和歌山）

■男子個人

▽**60kg級**＝①永山竜樹（愛知・大成）②大島拓海（徳島・阿波）③石川勇太（千葉・市立習志野）、山本達彦（神奈川・東海大相模）

▽**73kg級**＝①阿部一二三（兵庫・神港学園）②古賀颯人（愛知・大成）③吉田優平（岐阜・大垣日大）、立川新（愛媛・新田）

▽**81kg級**＝①佐々木健志（島根・平田）②飯島俊佑（神奈川・東海大相模）③佐野安大（静岡・静岡学園）、天野拓実（愛知・桜丘）

▽**90kg級**＝①白川剛章（福井・福井工大福井）②安達健太（岡山・作陽）③川田修平（愛知・大成）、二見省吾（神奈川・相洋）

▽**無差別**＝①小川雄勢（東京・修徳）②古田伸悟（奈良・天理）③太田彪雅（栃木・白鷗大足利）、香川大吾（広島・崇徳）

■女子個人

▽**52kg級**＝①前田千島（鹿児島・市立国分中央）②黒木七都美（愛知・大成）③常見海琴（埼玉・埼玉栄）、野村華子（宮城・東北）

▽**57kg級**＝①西尾直子（東京・帝京）②柴田理帆（埼玉・埼玉栄）③小川寧々（岡山・創志学園）、林美七海（大阪・東大阪大敬愛）

▽**63kg級**＝①鍋倉那美（愛知・大成）②佐藤史織（愛媛・新田）③齊藤百湖（東京・修徳）、米澤夏帆（大阪・東大阪大敬愛）

▽**70kg級**＝①池絵梨菜（大阪・東大阪大敬愛）②畠石香花（茨城・土浦日大）③新添左季（奈良・天理）、中江美裕（愛知・大成）

▽**無差別**＝①佐藤杏香（北海道・東海大第四）②冨田若春（埼玉・埼玉栄）③荒谷莉佳子（東京・帝京）、井上あかり（岡山・創志学園）

好評発売中

A5判・346頁
1,600円＋税

有田 秀穂 著

脳を活性化する
――武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経。
その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、誰もができる脳の活性化方法を解説。

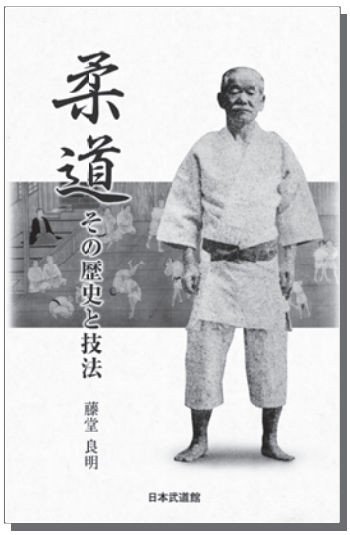
◎ ご注文・お問い合わせ ◎
日本武道館　月刊「武道」編集部
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 **藤堂 良明** 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。

武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた〝武道としての柔道〟を見失わないでいただきたいと願うものである。（本書「あとがき」より抜粋）

目 次

第一章 組討ちの起こりと技法
体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法
竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法
講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選士権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

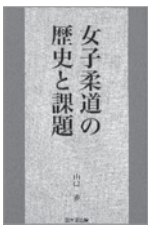
（B5判・上製・DVD付・336頁）

役に立つ少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

柔道はすばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

柔道の国際化 ―その歴史と課題

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・552頁）

嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）